



あいよく

穢翼のユースティア

*San dicitur Paracletus, Altissimi deum Dei, Fons vires, ignis, caritas. Et spiritalis sanctio.
Tu septiformis misericordia, Diuinus Paternus dexter. Tu rite primus in Patris,
summa regis auctorita. Aproposito Iesum servitorum. Intercede amorem coram
angore Virtutis formans perpetu.*

オーガストオフィシャルハンドブック

2010年秋号



あいよく

穢翼のユースティア

*Sicut ducis Patria patet, Attingimus denum Dei, Fons vivus, ianus, caritas, Et spiritualis inuenit,
Tu septiformis manere, Ductus Paternae dexterar, Tu nre gressum Patis,
Sermons ditans auctorar, Accende lumen sensu, Infunde amorem cordi,
Infirmorum nostri corporis virtute firmans perpetu.*

遙か昔、世界は神の御遣いである天使によって創造されたという。

祈りの言葉を持つ唯一の生物「人類」は、天使の力を借り、大いなる進歩を遂げる。

しかし、豊かさに満ちた時の中で、人々は祈りを忘れてしまった。

最初の悲劇は、約500年前。

人類の傲慢さに激怒した神は、天使を世界から引き上げさせた。

秩序を失った大地は、瞬く間に混沌の渦流に飲み込まれていく。

無数の都市が崩壊していく中、世界でただ一人祈りを忘れていた聖女が、神に許しを請うたという。

神は聖女の祈りを聞き入れ、最後に残った都市を空に浮かせることで人類を救う。

その都市が、浮遊する人類最後の都市《ノーヴァス・アイタル》である。

以来、聖女は贖罪の祈りを代々引き継ぐことで巨大な都市を空に留めてきた。

だが、第28代聖女イーヌの時代、再び悲劇が起こる。

《大崩落》だ。

大崩落は都市の姿も一変させる。

元々、この都市には、貴族が住む上層と一般民が住む下層という2つのエリアしかなかった。

ところが、崩落に伴う地震で下層の一部が沈降し、絶壁により隔離されたもう一段低いエリアが生まれる。

そこが現在《牢獄》と呼ばれている区画である。

シナリオ・榎原拓 ほか／原画・べっかんこう

今冬発売予定

※18歳未満の方はご購入になれます。



◆牢獄路地

大崩落

10数年前、この都市を大規模な崩落が襲った。『下層』と呼ばれていた一般民衆の居住区の一部が、突如として崩れ落ちたのだ。岩盤とともに下界へ落ちていた人間は数千とも言われ、生き残った人間も家族や財産を失った。火災や地震といった災害と違い、崩落事故はなんの痕跡も残さない。まるで初めから何もなかったように、全てが一瞬にして消失するのだ。犠牲者を弔うこともできず、被災した人々の胸には今なお癒えることのない喪失感が括がっている。そして何より、防ぐことができないこの災害は、都市に住む全ての人々に「都市は墜ちる」という強烈な恐怖を刻みつけた。都市の浮上から50年以上続いた安寧の時代は、もう戻って来ない。

羽化病

大崩落以降に発生が確認された、背中に羽が生える病気である《羽化病》。その患者が、一般的に「羽つき」と呼ばれている。羽化病は伝染するとされており、また老若男女を問わず発症するため、羽つきはほぼ全ての住人に忌避されてきた。しかし、羽つきが現れてから十数年を経た今でも、患者を全員隔離するには至っていない。発症すると最初は背中に小さな羽が生え、それが徐々に育ち、最終的には大きな羽となる。大きく育った羽は服などで隠せる大きさではなく、家族等に匿われている場合でも表を出歩くことは不可能だ。なお、その羽によって飛ぶことができた羽つきはいない。一般の住民に対しても羽つきの通報は強く推奨されているが、一部の娼館では、特殊な性癖の客のために羽つきを娼婦として供しているという噂もある。

《牢獄》の成立

《大崩落》により、大地の一部をそこに住んでいる者ごと喪失したノーヴァス・アイテル。その際、崩落こそせずに踏みとどましたものの、下層と切り離され一段低い大地と化したのが『牢獄』である。下層との間は高い崖(断層)で隔てられ、大崩落直後は行き来すままならない状態が続いた。その頃の牢獄は、難民が多数存在した上に食料供給も途絶えていたことから、一時は完全な無秩序状態に陥っていた。にもかかわらず衛兵などによる秩序回復が行われなかつたため、牢獄の住民は国に見捨てられたという印象を未だに持っている(その際に牢獄で秩序を構築したのが『不触金鎖』である)。今でも月に一度は地震が起き、いつまた崩落が発生するか分からず。高度が一段低いというだけでも住人は大変な恐怖感を呼び起しており、そのためか牢獄の人心は乱れ、回復の見込みすら立っていない。

ユースティア(ティア)

背中に羽が生える病(羽化病)に冒された少女。
ある事情で主人公が引き取ることとなる。
生みの親も育ての親もなく、物心ついた頃から下級の召使いとして使役されてきた。家事全般にそががなく、主人公の世話を一方的に見てきたエリスとは目の仇にされる。

カイム【主人公】

大崩落ですべてを失い、半壁に流れ着いた男。
受けた怪傷は未だに癒えず、その胸の奥で赤い雲を纏まざめざめ。
以来、牢獄の泥の中で刃を振るい続けた己が生の為に他者の命を糧としてきた。



◆牢獄露店区



◆牢獄裏路地



◆酒場”ヴィノレタ”



『牢獄』の生活

牢獄と下層の間には関所が作られ、人や物の流れは再開されているものの、基本的に牢獄の性格は大崩落直後から変化してはいない。即ち、堅苦しい法律などもない代わりに、貧困・売春・暴力の街であるということだ。実際、牢獄に物資が入ってくる関所前広場と対をなす街の中心部が娼館街である。上層や下層からも客を集めこの大歓楽街の派手で下品な賑わいと、裏路地に入ればそこ中に広がっているスラムの混涇が、牢獄の両面の象徴だ。だがいすれにせよ住民の大部分は貧しく、一日一日を生き延びるのが精一杯である。なお、下層住民が牢獄に来て帰ることはできても、牢獄住民が用もなく下層に行くことはできず、関所を通り抜けることはできない。貧しい者や犯罪者などの都市の渦みは、牢獄に流入することはあるも流出すること無く渦巻き続ける。



メルト

娼館街の人曰くある酒場“ヴィノレタ”を一人で切り盛りしている。かつては娼館街で最も人気のあった娼婦だったエリスやカトリーヌも旧知の仲で、羽つきであるティア監督としても理解度を下す。

エリス

娼婦にならかけのところをカーメに射殺された女。
娼館街の医者を生産としており、その強制は高く評価されている。
その経済からカーメに強く依存しそれが自分は彼のものだと公言してはほがらかならぬ。
身請け!! 多額の金を手に娼館から娼婦を買ひ取る。

下層・上層



◆下層《大崩落》跡地

羽狩り

《羽化病》の患者である《羽つき》を捜し出して保護し、治癒院へと連行・隔離することを任務とする組織が「羽狩り」である。正式名称は「防疫局」だが、その強制的な手法を揶揄して「羽狩り」と呼ぶのが一般的だ。なお、伝染病である羽化病の患者を隔離することは国としても喫緊の課題であるため、羽狩りには「羽化病患者の保護を妨害するものの強制排除権」が認められている。この「強制排除」には鍵の掛かった扉を蹴破ることから悪質な妨害者の斬り捨てまでが含まれるが、強制的隔離への反発も特に牢獄では大きいことから、隊員には荒くれ者が多い。防疫局の責任者は、最近頭角を現してきた若手貴族のルキウス卿。牢獄の隊長はフィオネが務めている。

不蝕金鎖

暴力や売春という牢獄の暗黒面を握り、実質牢獄の法を司っているとも言えるのが「不蝕金鎖」である。元は、大崩落直後の無秩序・食糧不足状態の中で、崖の上の下層から買い入れる物資を仕切る集団だった。その後、国から半ば見捨てられた牢獄の秩序回復を担ったことから、住人からは一定の信頼を得ている。今では国から治安維持のために派遣されている衛兵も形ばかり存在するものの、実力も住民からの信頼も不蝕金鎖には遠く及ばず、いくらかの賄賂によって骨抜きにされているようだ。なお、数年前に初代の頭が亡くなり息子であるジークが正式に跡目を繼いだが、その際に副頭派が組織を割って独立し、現在も繩張りや商売の上での衝突が絶えない。本拠地は、娼館街で最も大きな娼館である「リウム」の上階。

娼婦

生き延びるために手段として、自発的に強制的にかを別として女を売ることを選んだのが娼婦であり、そのための商売の場所が娼館である。娼館街の中心部にあるリウムが最高級店。周縁部に行くに従って娼婦の質も値段も下がっていき、底辺では性病なども多い。娼館には不蝕金鎖直営に近いものから、娼館主から不蝕金鎖が上がりを徴収しているだけのものまで存在するが、娼館同士・娼婦同士・娼館や娼婦と客・客同士の揉め事は不蝕金鎖が仕切る。当然ながら、娼婦の逃亡などは元締めである不蝕金鎖により厳しく罰せられ、手助けをした男なども同様の運命を辿ることになるだろう。なお、逃亡娼婦はそもそも牢獄からの脱出がほぼ不可能であるため、娼館街自体が柵で閉まれているといったことはない。また上層や下層では売春が法で禁じられていることから、高級娼館の上得意にはそういう牢獄以外の場所から来た客も多い。

フィオネ

『羽化病』が発症した人を半ば強制的に治癒院へ送るために作られた組織「羽狩り」。その牢獄地域を担当する部隊の隊長を務めている。羽狩りの持つ社会的な意義を信じて仕事を打ち込んで、眞面目な性格。娼館街などには嬢・悪友を持ち、それがあたかも「カイム達と衝突する。今のところ、ティアが羽つきでよろこびはないよ」と付いていないようだ。



上層貴族居住區



◆“羽狩り”詰所



◆下層一般居住區

貴族

国王や貴族など地位の高い人間が住むのが、俗に「上層」と呼ばれている区域である。一般民衆が住む「下層」に比べて起伏が激しく急峻な斜面も多い。住宅地として適した地域ではないが、伝統的に貴族たちはこの地を選んで住んでおり、頂には都市を睥睨するように王城が聳えている。その高さゆえに王城はいつも高の彼方にあり、王家の有り様と同じく清明にうかがい知ることはできない。聖女が祈りを捧げている聖堂も上層にあるため、ここはノーヴァス・アイテルに住む者にとってまさに高き場所であり、憧れの対象でもある。そのぶん警戒は厳重で、牢獄では稀にしか見ることができない衛兵も、上層ではいたるところに見ることができる。



システィナ

ルキウスの片腕として、主の後についた付き従つてゐる。洗濯された物語話をしてから、ルキウスと同じく上層の貴族ではないかとの憶測もある。感情的苦悶に出でます。常に沈着冷静。水のように冷たい霧開気を纏つてゐる。

聖域・王城



◆聖域“聖女の島”

聖域

大聖堂は上層にある建造物で、聖教会で最も格式の高い祈りの場だ。多くの尖塔を持つその壯麗な姿は都市の各所から見ることができ、人々の無意識下に見上げるもの象徴として存在している。ここでは多くの聖職者が居住し、日々の祈りを捧げると同時に、聖職者としての訓練も行われているが、その実体はほとんど知られていない。一部の区域は住民に開放されているものの、警備が厳しく、入ることができる時間は限られている。また、入るにはそれ相応の寄付が必要となるようだ。大聖堂の奥には聖域と呼ばれる区域があり、聖女が不斷の祈りを捧げている。大聖堂と聖域を繋ぐのはただ一本の橋のみで、聖域へ入ることが許されるのは聖職者の中でも最高位に近い者に限られているという。

聖女イレーヌ

ノーヴァス・アイテルの浮遊から約500年。聖女イレーヌはその敬虔な祈りの力で、巨大な都市を空中に留め、下界の混沌から人々を守ってきた。祈り、都市を浮かせること。これこそが代々の聖女に課せられた最も重要な役割である。大崩落発生後、時の聖女イレーヌは信仰の不純さを疑われ処刑されることになった。聖女はまさに命を賭して都市を浮かせ続けていたのである。初代から数えて29代目に当たる現在の聖女イレーヌは、盲目の聖女と呼ばれ、これまでの聖女たちの中でも特に強い尊崇を集めている存在だ。彼女は今日も、神聖な聖堂の奥でノーヴァス・アイテルと住民たちの平和のために不断の祈りを捧げている。

政治形態

ノーヴァス・アイテルが大地を離れた時から、この都市はノーヴァス家から輩出される国王が支配しており、今日に至るまでその血統は途絶えていない。国王には数多くの貴族が仕え政務を補佐しているが、地理的条件から領土が拡大できないため、貴族に目立った恩賞が与えられることは少ない。したがって貴族の国政や地位に対する意欲は低く、政変はおろか権力争いもほとんどない。良く言えば安定した治世が続いている。国民の王家や政治に対する関心も低く、現国王が病に伏していることを知っている者は多くないだろう。次期国王となる第一王女リリアはまだ若く、執政と呼ばれる地位の貴族が彼女を支えながら政務を執っている。

聖女イレーヌ

第29代聖女イレーヌ。大崩落の責任を取らずに処刑された先代の聖女に代わり、祈りの力でノーヴァス・アイテルを空に留めている。民衆の間に姿を現すことはよく、強て説いて、聖堂の奥にある聖殿で人生を祈りに捧げてしまっている。光を失ってしまったから、前日の聖なる瞬間から、民衆からの人気は絶大である。

ラヴィリア

聖女イレーヌと共に聖域で暮らし、身のまわりの世話をするほか、聖堂の神官達との連絡役を務めている。聖女が現在の地位に就く以前からの知り合いで、現在とても親密な関係は穏やかで、性格は穏和で古風だが、長い時間を聖域だけで過ごしてきたこともあり、世間知らずとも純粋すぎるところがある。



◆王城謁見の間



◆王城中庭



城バルコニー



◆聖域“大聖堂”



執政公ギルバルト

王の執務を支える執政という役職に就く。その貴族たちからほは「執政公」と呼ばれ、その家柄は「まさき」。元は「まさき」が、激しい力闘闘争を勝ち抜いて現臣の地位を手に入れた。現在王が病んである上に繼承順位一位のリシア姫がまた若い為、彼にかかる負担は膨大なものとなっている。

リシア王女
王家の娘「正王女」露華順位は一位、実父である明仁が跡に
伏せた後、じつは内閣総理として政務を執り行っている。
まさに戴冠の儀を経て、「正王女」と揶揄する
貴族はいるようだが、本ほんまに娘にしてない。
性格は明瞭で活力に満ちるが、王家の間人にしては俗俗への関心が強いようで、召使いから
炊事や裁縫などの仕事を奪つては迷惑がられている。

「カイムさん……」

「もう、わたしに価値なんかないじゃないですか」

わからない。

それが正直な答えだった。

「お前の生まれ持った運命ってのが見てみたくなったんだ」

「側にいればわかるんだろ?」

「お、おそらくは……」

「でも、きっとあんまり面白くないです」

「すごい運命じゃなかったのか」

「ああ、いえ、すごいはすごいと思います」

「適當だな」



あいよく

穢翼のユースティア

今冬発売予定

Qui duxit Propterea, Misericordia domini dei, pax vobis, ianis, caritas. Et spiritualis sues.
Tu vestimentis inservie, Duxit Paternas extrema. Tu rite munitionem Patri,
Sermonis dictans exultura. Accende lumen sensibus. In fundo amorem cordibus,
Corona nostri corporis Virtute firmans perpetu.



あとがき

当ブックレットを御手に取って頂き、誠にありがとうございました。今回は従来とは仕様を変えて、フルカラー版でお送りいたしましたかいかがでしたでしょうか。最新作『穢翼のユースティア』の開発は順調ですので、近日中に発売日等も正式に公開できることと思います。一気に情報をお出しできず私たち自身ももどかしい限りですが、今後の情報公開には是非ご期待下さいませ。また、『FORTUNE ARTERIAL』もTVアニメを筆頭に各メディアにて多数展開されております。原作者としても大変楽しみにしています。こちらも、どうぞよろしくお願い致します。

2010年10月 オーガスト一同



あいよく
穢翼のユースティア

Les démons de l'âme. Miroirs et miroirs. Pas... Pas vivre, mais... vivre. Zi miroir n'est pas...
De worteldeelers... Deelde... Tederdeelde deelde... To... toe... premiers... Passe...
Derniers... derniers... derniers... derniers... derniers... derniers... derniers... derniers... derniers...
Derniers... derniers... derniers... derniers... derniers... derniers... derniers... derniers... derniers...

今冬発売予定



AUGUST OFFICIAL HANDBOOK
2010 AUTUMN "AIYOKU NO EUSTIA" SPECIAL